


<b>国土交通大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名
	<b>株式会社大林組 大阪本店 淡路町 3 丁目工事事務所</b>
	所在地
	<b>大阪府大阪市中央区</b>
	受賞テーマ
	<b>建物特性、敷地特性を活かした 3 R 活動</b>
<p>受賞者のプロジェクトは大阪市中央区のオフィス街に建設された超高層型マンション建設工事である。建設前は駐車場で、地中には過去同社施工オフィスビルの地下躯体が残存しており、地中障害を撤去しながらの工事であった。</p> <p>また敷地周辺はオフィスビル・飲食店が建ち並び、非常に狭い敷地での建設工事であった。</p>	
<p><b>【リデュース】 型枠発生材の抑制</b></p> <p>躯体工事では柱・梁・床で PCa 化工法を採用し型枠廃材の発生を大幅に抑制した。なお、大林組の保有技術の PCa 化工法である LRV 工法を関西圏で初めて採用し、従来の PCa 化工法では現場コンクリート打ちとなる柱・梁接合部分も一体化した梁 PCa とすることで、更に型枠廃材発生抑制に寄与している。</p> <p>また高層マンションにおいて同形状が繰り返される特徴を活かし、外壁立ち上り壁をサイト PCa 化して型枠材を転用することにより型枠廃材の発生を抑制した。同様に屋上へリポートの外周躯体においてもサイト PCa 化を実施した。</p>	
<p><b>【リユース】 地中既存躯体の再利用、杭安定液の再利用、裏紙の使用推進</b></p> <p>当初は地下躯体全周に SMW 工法の山留め壁を新設する計画であったが、地中の既存山留壁（OWS 工法）を最大限再利用し、新設する SMW 壁の範囲を最小限とした。また、構台用支持杭においては、既存耐圧盤を支持層として再利用し施工長さを最小限とした。これにより新規資材を最小限にするとともに、山留めや仮設杭施工時の汚泥の発生量を抑制した。</p> <p>杭工事では使用する孔壁安定液（ベントナイト安定液）を該当工事終了後他現場にて再使用し、建設業全体を通して汚泥の廃棄量を減量している。</p> <p>現場事務所においては、裏紙の使用を推進した。不要文書を廃棄せず、所内会議用書類やメモ書きとして裏面を使用することで廃棄書類・新規使用書類を減らした。</p>	
<p><b>【リサイクル】 ゼロエミッション活動の推進</b></p> <p>狭小な敷地の中で大型の産廃コンテナを配置するスペースが無く苦心したが、工事の進捗に合わせて小型の分別カートを建物内外に移動する工夫をしながら配置して分別活動に取り組んだ。なお、工事用エレベータにて廃棄物の荷揚げ・荷降ろし作業を行うなど、職長会が主体となり産業廃棄物の分別・管理を行った。また、作業員に対し、産業廃棄物処理業者による分別教育を行った。</p>	
<p><b>【近隣、地域への配慮】</b></p> <p>全シーズンを通して工事現場の一角において家庭菜園、クリスマスシーズンにはイルミネーションを設置し緑化と景観向上に努めた。使用電器具は LED 仕様のものでし、消費電力の削減に努めた。</p> <p>既存躯体の解体作業においては、防音パネルの設置及び解体工事機械の機種変更で騒音を抑制し、散水養生による粉塵抑制に努めた。</p>	